

参考文献:

- Circular of Information for the Use of Human Blood and Blood Components. AABB. Oct 2017.
- AABB Technical Manual. 20th Edition.



このパンフレットは、
California Department of Public Health,
Laboratory Field Services
(850 Marina Bay Parkway,
Richmond, CA 94804)

が
Medical Technical Advisory Committee
of the Blood Centers of California.
と共同で作成しました。

パンフレットの内容に関する情報につきましては、
下記までお問い合わせください。

(510) 620-3800

または、

LFSBiologics@cdph.ca.gov

このパンフレットは、一つの情報源として提供されており、輸血前のインフォームド・コンセントに代わるものとしては考慮されません。



配布元:
Medical Board of California

このパンフレットのご注文は、
FAXにてお問い合わせください。
(916) 263-2497

この情報は以下にて電子的に取得される場合があります。

<http://www.mbc.ca.gov>

2022年3月 編集

患者さんの向け 輸血ガイド



California
Department of Public Health
(カリフォルニア州公衆衛生局)

2022年3月

本紙は、患者さんまたは患者さん以外の他者から採取された赤血球、血漿、血小板、またはその他の製剤を含む血液製剤の輸血のメリット、危険性、他の治療法について、書面で情報を提供するためものです。この資料は、医師との相談にあたり、補完的な役割を果たします。本紙の内容をしっかりと読み、十分に理解しておくことが重要です。輸血に関するご質問があれば、血液または血液製剤の輸血に同意する前に、医師に確認してください。

治療に関する情報

血液製剤の輸血は、健康を維持する上で、体内で不足している血液成分の量を増加させるために行われます。輸血には、赤血球、血漿、血小板、またはその他の特別な血液製剤が使用されることがあります。医師が、患者さんの症状または診断に基づいて、血液製剤の量や種類を決定します。

治療の潜在的メリット

血液製剤の輸血は、体内で不足している血液成分を補うのに必要なことがあります。輸血を行わないと、死に至るような重篤な結果を含む健康上の悪影響が起こる場合があります。

治療の危険性

この治療における既知の危険性は、以下を含みますが、それに限定はされません。

- 注射部位の痒み、痛み、または感染
- 熱、悪寒、発疹などの一時的な反応

その他の稀ではあるものの重篤な合併症には、細菌感染(敗血症)、重度のアレルギー反応、

体液過剰による心不全、液体の肺内侵入(急性肺水腫)、赤血球破壊(溶血)、ショック、または死を含みますが、それに限定はされません。

血液製剤の輸血には、HIV(300万人に1人)、C型肝炎(330万人に1人)、B型肝炎(150万人に1人)などの非常に低い感染症のリスクが伴います。その他の重大な感染症も輸血により感染することがありますが、全体的なリスクは低いと考えられています。

治療の選択肢/他の治療法

血液が必要な場合、いくつかの選択肢があります。輸血を必要とする多くの患者さんは、ボランティアのコミュニティドナーから献血された血液製剤の輸血を受けます。できる限り安全な血液を供給するため、これらのドナーには、広範囲に及ぶ既往歴の検査や州や連邦の規制によって定められている数多くの血液検査が行われます。ボランティアのコミュニティドナーから献血された血液製剤の輸血以外の方法には、以下のものがあります。

術前自己血献血 (事前に採取した患者さん本人の血液を使用する方法)。詳細は下記をご覧ください。

指名供血 (患者さんから依頼を受けた人が献血した血液を使用する方法)。詳細は下記をご覧ください。

術中回収式/血液希釈式自己血輸血 (手術中に出血した血液を回収し、患者さんに戻す方法)

投薬: 特定の薬を術前または術中に使用すると、血液量が増加、または出血が軽減され、輸血の必要性が減少します。

これらの選択肢は、健康状態、時間、そして手術が適している場合のみ、使用することができます。

場所や人によって、これらの選択肢が使用できないこともあります。輸血を受けないという選択もあるかもしれませんが、この決断は生命に関わる結果を伴う場合があります。

術前自己血献血には適さない患者さんもいます。自己血献血を行う場合は、計画された手術の前にご自身の血液を採取し、病院またはコミュニティの血液バンクに保管しておくこととなります。自己血献血を行うことの安全性、受ける手術における輸血の必要性、現在の輸血ガイドラインについては、医師と相談することが重要です。ご自身の血液を輸血すると、輸血に関連する合併症のリスクが軽減はするものの、無くなるというわけではありません。このサービスにおける保険給付金の方針は、保険会社によって異なる場合があります。一般的に、自己血献血は、適している人には考慮すべき選択肢の1つです。しかし、アメリカでは、血液の安全性に関する大きな進歩と不必要な輸血を減少させるための努力により、自己血献血は、過去数十年間で大幅に減少しています。

指名供血とは、特定の患者さんからの依頼で献血する「指名されたドナー」から採取された血液のところです。大抵、指名されるドナーは、患者さんの家族や友人です。指名されたドナーは、ボランティアのドナーと同じ適性確認プロセスに合格した患者さんと同じ血液型の人でなくてはなりません。指名されたドナーが、一般の血液供給よりも安全であるということはありません。

安全で十分な血液供給は、コミュニティの健康なメンバーによる利他的な献血に依存しています。家族や友人からの献血は、他の患者さんや患者さんご自身のニーズを満たすための十分な供給を確保する上で役立ちます。